

「950MHz 帯中出力型パッシブタグシステムの技術的条件」 の審議について

1 検討開始の背景

電子タグシステムは、流通・物流分野における利用がかねてより注目されており、特に近年、技術の進展とともにコスト改善等が進み、食品・医薬品等の安全・安心管理、高齢者支援、交通等、より幅広い分野への利活用が進展しつつあるところであり、今後、ユビキタスネット社会の実現に向けて非常に重要な役割を担うことが期待されている。

950MHz 帯パッシブタグシステムについては、工場等への設置を想定し比較的長距離の通信が可能な高出力型とともに、小売店舗の倉庫等での利用を想定し持ち運び可能な低出力型に関する制度整備を行い、広く利用されているところである。

一方で、近年、建築現場、トラックの荷物の積み下ろし現場等、屋内外において高い作業効率が求められる利用シーンにおいて、低出力型のパッシブタグシステムよりも読取距離が更に長く、持ち運び可能なパッシブタグシステムに対するニーズが高まっているところである。

このような背景を踏まえ、950MHz 帯中出力型パッシブタグシステムの導入に向け、必要な技術的条件等の検討を行うものである。

2 検討内容

「小電力の無線システムの高度化に必要な技術的条件」のうち「移動体識別システム（UHF 帯電子タグシステム）の技術的条件」のうち「950MHz 帯中出力型パッシブタグシステムの技術的条件」

3 検討体制

既存の小電力無線システム委員会（主査：森川 博之 東京大学教授）において検討を行う。

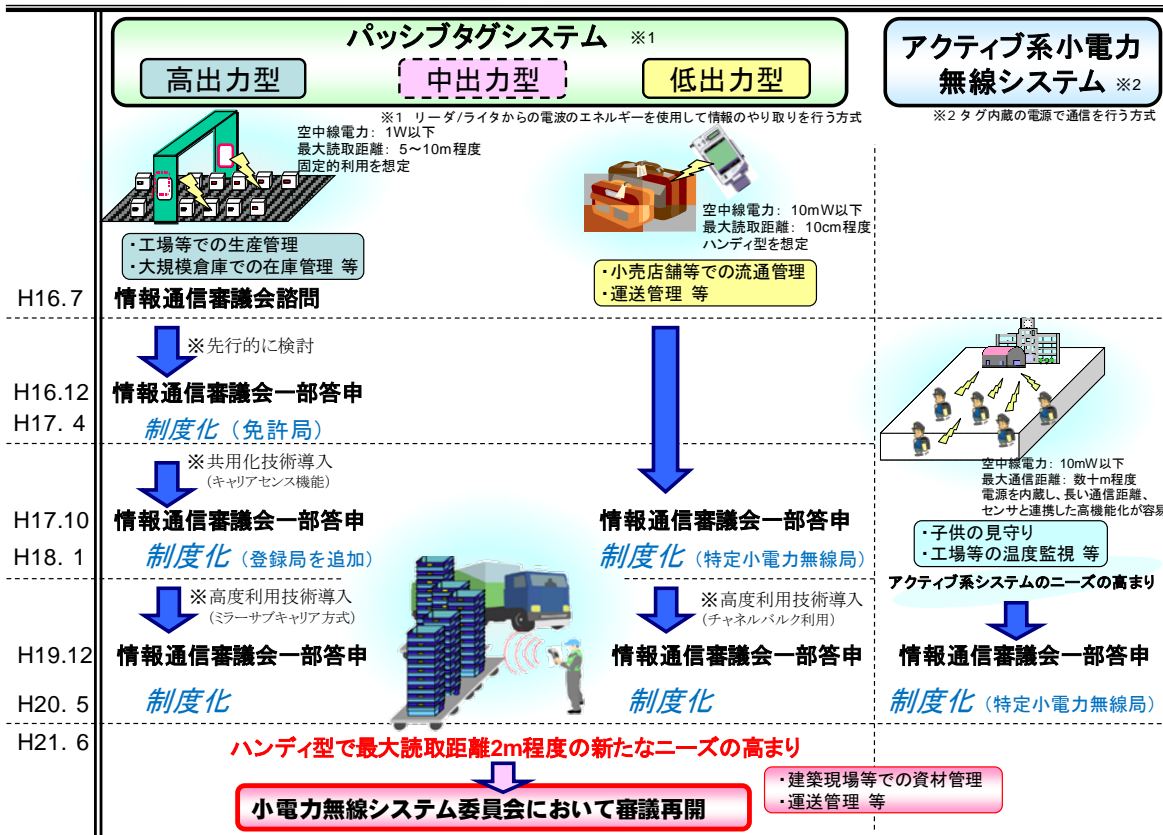
4 答申を予定する時期

平成 21 年 11 月頃

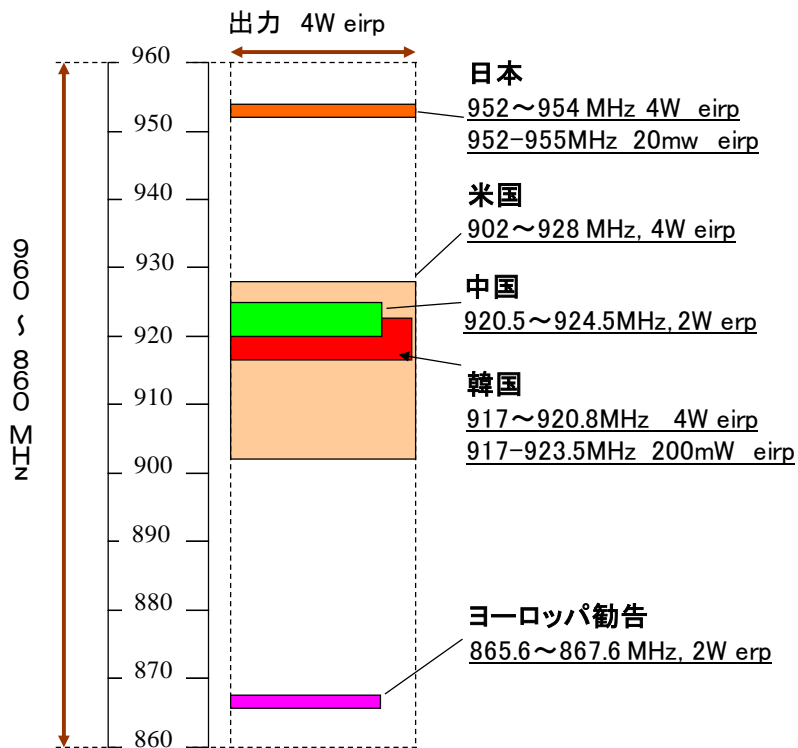
5 答申後の行政上の措置

関係省令の改正、周波数割当計画の変更等に資する。

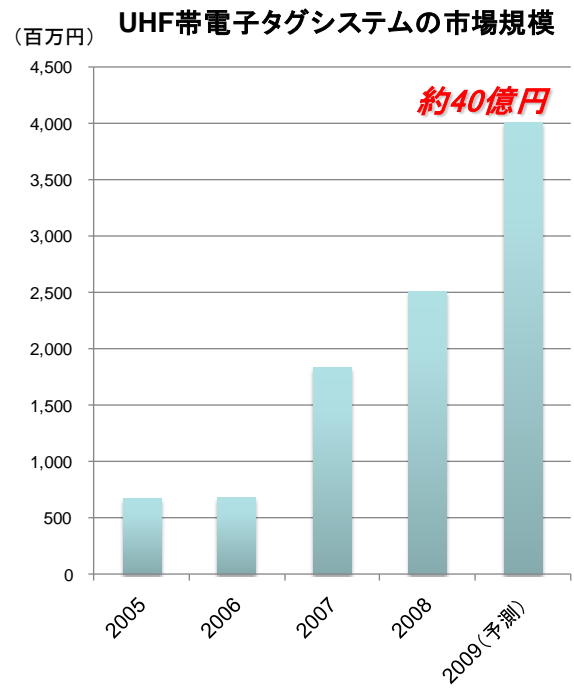
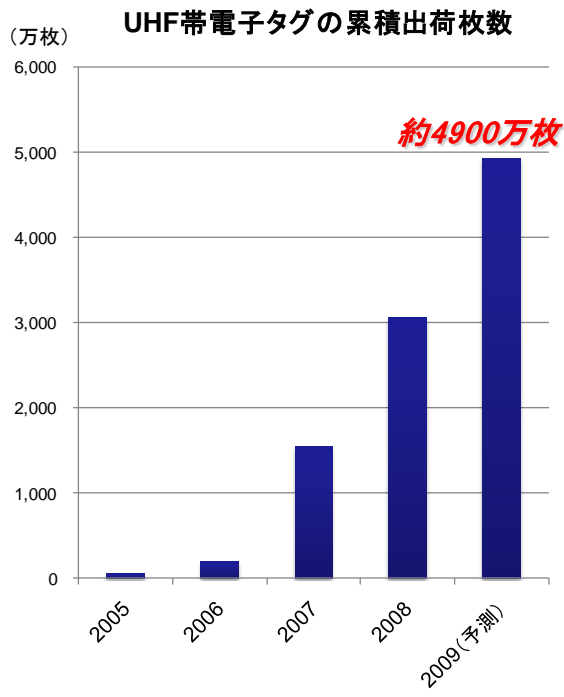
950MHz帯電子タグシステムの制度化状況



電子タグシステム (800/900MHz帯) の国際動向

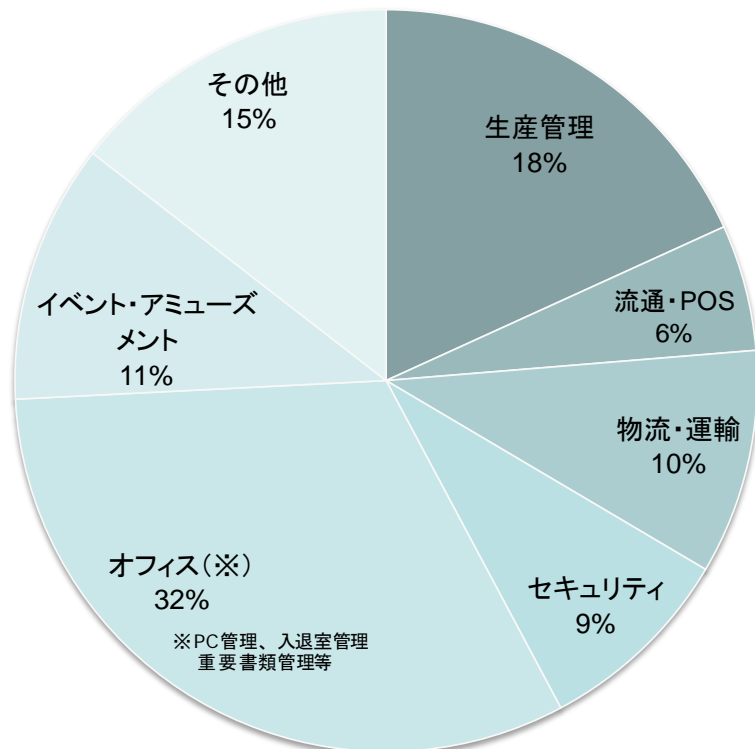


UHF帯電子タグシステムの普及動向



(社) 日本自動認識システム協会調べによる

電子タグシステム全体の用途比率(2008年実績)



(社) 日本自動認識システム協会調べによる